

週日の説教

金 大烈 神父 2009年12月2日(水)

《イエス様の御心》

おはようございます

今日、イエス様が色々な人を癒して下さったその場所に、私達もいると想像してみましょう。

噂を聞いてある所に出かけみました。行ってみると、私だけでなく大勢の群集が集まって何かを待っていました。遠くてあまりよく見えないのですが、一人の方が立っていてその周りに何人かのお手伝いの人がいる様子です。その方の前には、沢山の人が不自由な体を横たえて何かを願っている、はっきり見えないけれどそんな姿が目に入ります。気になって何が起きているのかと、人ごみをかき分けて近づいて見ます。よく見ると、ある三十代のかっこいい美男の背の高い青年が見えます。彼がそれぞれに、ある人には言葉をかけ、ある人には手を置いて、又ある人には何か理解出来ない振り舞いを見せています。そして、彼がそのような行動を取ったとたん、人々が立ち上がり涙を出していません。横にいる手伝いの人々も皆、涙を出しています。

そんな姿を皆様、今見たらどのような気持でしょうか。

今日の福音(マタイ 15・29-37)では、「それを見た人々が皆驚いた」と簡単に表現されていますが、実際、目のあたりにしたら息が止まるくらい感動するでしょう。感激するでしょう。これはどういう事かと、本当に怖ささえ感じる気持になるのではないのでしょうか。

皆様は、福音のイエス様が人を癒される物語をあまりにも聞かされたので、あまりにも慣れてしまって、「今日もイエス様の癒しがあるんだなあ」ぐらいにしか思わないのでしょうか。

もう一つの面について考えてみましょう。今日「足の不自由な人、目の見えない人、体の不自由な人、口の利けない人、その他多くの病人」がいましたね。その人々と私達とどんな差があるのでしょうか。私達の目はよく見えるのでしょうか、口はよく利けるのでしょうか。ある意味で、神様の目から見たら皆同じではないのでしょうか。私達も、いつも目も口も何よりも心を癒されなければならない、その癒しの対象であることを意識する必要があると思います。

自分の色々な痛みや弱さを持って、イエス様に願うために近づいて、そして願ったらその方が癒して下さった。その体験が信仰体験です。この様な体験を、皆様持っていらっしゃると思います。

面白いのはこの様に癒された人々、そして、その現場を体験した人々も、結局イエス様を裏切りました。「十字架につける、殺せ、殺せ」と叫んだ人々と全く同じでした。私達には色々な誘惑があります。特に、信仰的に油断してはいけないちょっとしたことが誘惑になってしまいます。誘惑に陥ると今までの感謝すべき全てのことを忘れてしまうのが人間の弱さです。弱点です。感謝する時は感謝します。しかし、忘れてしまいます。感謝することよりもその反対の心にいつも縛られています。不満で満たされています。

今日の福音でもう一度思い出さなければならないことは、私達は喜ばなければならない立場であって、それ以外の事には何の資格もないことを意識するべきだと思います。

最後にイエス様は、ご自分と三日間一緒に過ごされた人々をご覧になって、この様におっしゃいました。「群集がかわいそうだ。もう三日も私と一緒にいるのに、食べ物がない。空腹のままで解散させたくはない。途中で疲れきってしまうかもしれない。」これが“御心”です。今の時も一人一人の私達の心を思い、振る舞いをご覧になりながら、私達のために逆に願っている神様の“心”が、この様な“心”ではないかと思います。この“御心”をいつも考えようとする生活、その生活ができれば私達は少しでも色々な誘惑から解放されると思います。

ありがとうございました。